

2012年9月23日・しんぶん赤旗 日曜版「文化」欄では

脱原発 218 人の詩集

『脱原発・自然エネルギー 218 人詩集』がコールサック社から刊行されました。佐相憲一、柴田三吉、御庄博実の各氏ら 218 人の詩、編者の推薦する詩など 226 編を収めています。福島に寄せる海外詩人の作品も多数収録。英訳も載せています。

序文は坂本龍一氏の昨年のスピーチを収録。その中で坂本氏は、「『アウシュヴィッツ以後、詩を書くことは野蛮である』とアドルノは言いました。ぼくはこう言い替えたい、『フクシマのあとに声を発しないことは野蛮である』と。」とのべています。

編者のひとりの鈴木比佐雄氏は、「本書が福島県の故郷に帰ることが出来ない人びとを少しでも励まし、また脱原発・自然エネルギーを目指す人びとの心の糧になること」を願って出版すると、巻末に記しています。

と紹介されています。